

鳥取県中学校総合体育大会 ソフトテニス競技 運営および競技の規定

- 1 競技は、現行の（公財）日本ソフトテニス連盟「ソフトテニスハンドブック」及び本大会要項に加え、本稿『運営および競技の規定』により運営される。
- 2 選手・監督の変更は、代表者が **8：30 までに** 各地区専門委員長へ申し出を行い、承認を得ておくこと。
 - (1) 各校の代表者は、選手・監督変更の内容について監督会議において承認を得ること。
 - (2) 団体戦においては、変更人数の制限は設けない。
 - (3) 団体戦において欠員が生じ 2 ペアでの出場となる場合は、監督会議で承認を得ること。
またその場合のオーダーは欠員ペアを 3 番目とし、監督は対戦前に相手チーム監督にこのことを明示しておくこと。
 - (4) 個人戦（ダブルス）においては、1 ペアにおいて 2 名とも選手変更することは認めない。
 - (5) 個人戦のペアの変更については、次の通りとする。
けが等の理由により、A ペアにおいて欠員が生じた場合は、申込みにおいて A ペアよりも下位の B ペアのうち 1 名が代員として出場することができる。この場合、B ペアは棄権もしくはオープン参加とする。このように、**1 名の欠員は 1 名で対応する**。
- 3 到着受付について
 - (1) 団体戦については、**8：45 の監督会議までに**、監督が到着受付を行うこと。
ただしその際に、1 回戦に出場するチームは、オーダー用紙も同時に提出すること。
 - (2) 個人戦両日についても、**8：45 の監督会議までに**、監督が到着受付を行うこと。
 - (3) 校長印のある申込み用紙（団体・個人）を各地区専門委員長が提出すること。
- 4 団体戦のオーダー用紙の提出
 - (1) 1 回戦に出場するチームは、到着受付の際に監督が大会本部へオーダー用紙を提出する。
 - (2) 2 回戦から出場するチームは、対戦相手が決まりしだい速やかに監督が大会本部へオーダー用紙を提出する。
 - (3) 上記 2－(3)に関連して、相手チームに欠員が生じていることがオーダーの提出後に確認された場合は、オーダー用紙の再提出によるオーダー変更を認める。
- 5 試合については、次のように運営する。
 - (1) マッチは、7 ゲームマッチを原則とする。
 - (2) 大会使用球は、本部により定める。
 - (3) <団体戦>
 - ・ダブルス 3 ペアによる各校代表チームによるトーナメント戦とする。
 - ・3 ペアの点取り対抗戦とし、2 点を得たチームを勝ちとする。
 - ・大会の終了を第一の目的として、2 面展開を積極的に採用し、勝敗が決定した時点で対戦を終了する。ただし各チームの初戦のみ勝敗が決定しても 3 ペア目の対戦まで行う。
(2 ペアでの出場となるチームは、2 ペア目の対戦までで打ち切る。)<個人戦>
 - ・各校代表ダブルスペアによるトーナメント戦とする。
 - ・個人戦（ダブルス）においては、出場ペア数の監督をおくことができる。
 - (4) 大会の終了を第一の目的として、雨天等の影響が認められる場合、マッチ数等について上記の内容を変更する。
- 6 審判については、次のように運営する。
 - (1) 団体戦
 - ・対戦チームによる相互審判制度を採用する。
 - (2) 個人戦
 - ・初戦の審判は、本部で指定した選手による。以後、以後、敗者審判制度を採用する。
 - (3) 各校においては選手に審判ができるよう、事前に審判の実技指導をお願いいたします。

7 服装・ゼッケンについては、次のようにする。

- (1) 選手・監督・外部指導者（コーチ）は、「要項」の規定に従うこと。
- (2) 大会としての枠組みの保持を目的として、「要項」に違反がある場合はベンチ入りを認めない。

8 競技上の細則については、次のようにする。

- (1) ベンチの位置は、若い番号が（ ）側とする。
- (2) ベンチに入場できる者は登録選手または監督・外部指導者（コーチ）もしくは監督会議において認められた者のみであり、その人数は団体戦は監督または外部指導者のいずれか1名と登録選手による最大9名、個人戦は同様に最大3名とする。
- (3) ベンチコーチについては、ソフトテニスハンドブックの規定に従い、チェンジサイズ時の60秒以内において、監督または外部指導者（コーチ）が選手に対して行うことができる。コート外からの助言については一切禁止されている。
- (4) ベンチへの物品の持ち物については、クーラーボックスを熱中症予防のために認める。
- (5) ベンチへ出入りについては次の通りである。同一校が複数のコートで試合を行っている場合、監督・外部指導者（コーチ）は入っているコートのベンチから最も近い出入口から出てもよいが、再度もとのコートのベンチに戻ることはできない。また、ベンチ外からのアドバイスは認めない。
- (6) 審判に対する異議の申し立ては、ソフトテニスハンドブックにより一切禁止されている。選手はプレーの進行及び審判の判定に関し、審判に対して異議を申し立てや、結果を不服とした故意によるプレーの中断をしてはならない。
- (7) 前項の規定は、選手が審判に対して質問することを妨げるものではない。ただし、質問に対する結果については、前項の規定が適用される。

9 マナーについては、次のようにする。（ソフトテニスハンドブック「プレーヤーの心得」）

選手はお互いにマナーを尊重し、次の事項を守らなければならない。

- (1) 過度のかけ声、または相手を不快にする発声をしないこと。
- (2) マッチの開始から終了まで連続的にプレーし、次の行為をしてはならない。ただし、サイドのチェンジ及びファイナルゲームに入る場合は、前のゲーム終了から60秒以内にゲームを開始する態勢に入るものとする。（審判は45秒で「レッツプレイ」をコール）
 - (ア) 相手がレシーブの構えをしているのに、サービスをせず、又は相手がサービスをしようとしているのにレシーブの構えをしないこと。
 - (イ) 故意にゲームを長びかせる行為をする。
 - (ウ) マッチの進行に支障となる状態でパートナー同士の打ち合わせをし、又は休息を取る。
 - (エ) ゲーム終了後、次のゲームに移る構えをしないこと。
 - (オ) ファイナルゲーム内のサイドのチェンジの場合に休息を取る。
 - (カ) ラケットの修理をする。

10 その他

- (1) ゴミは、各校による持ち帰りとする。
- (2) 貴重品の管理は、各校で責任をもって行う。
- (3) 壁打ち場以外でのボールを使用した練習は、事故防止のために認めない。
- (4) 喫煙場所は所定の箇所をお願い致します。

11 大会当日の練習コートについては、別紙の通りとする。